

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 29年 1月 27日		
所属学部・研究科	総合科学部/研究科 3年次 (留学開始時点)		
留学先大学	ユバスキュラ大学 (国名: フィンランド)		
所属学部・学科等名	教育学部		
在籍身分	交換留学生		
留学期間	平成 28年 8月 13日 ~ 平成 28年 12月 27日		
1. 渡航について			
ビザについて	ビザの種類: 学生ビザ		
	ビザ申請先: フィンランド大使館		
	取得方法, 提出書類: オンライン申請 (提出書類: パスポートのコピー・大学の受け入れ許可証・銀行口座の残高証明・海外旅行保険証明書) → 東京のフィンランド大使館へ (オンラインで提出した書類の確認・全ての指の指紋提出) → 審査 (約2週間) 通過 → ビザが自宅に郵送される		
	手続きに要した日数: 約3週間		
その他必要な事前手続き	・ユバスキュラ大学へのオンライン申請 (学内推薦決定後) ・引っ越し (一人暮らしで、留学時に一度広島の家を引き払う場合)		
出国年月日	平成 28年 8月 13日		
経路	中部国際空港 → 北京空港 → モスクワ空港 → ヘルシンキ・ヴァンター空港 → バスでユバスキュラへ (飛行機で乗り継ぎ便に乗る場合は、すべての便を同じ航空会社にするをおすすめします)		
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (・ 大学関係者 ・その他) <input type="checkbox"/> 無		
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	9月のはじめに約3日間の留学生向けオリエンテーションあり (内容: 住居関係など諸手続きの仕方・履修登録や授業について・授業以外の学校生活についての説明など) ※8月の言語コースに出席する場合は、その時に個別にチューターから説明を受ける。		
帰国年月日	平成 28年 12月 28日		
経路	ユバスキュラからバス → ヘルシンキ・ヴァンター空港 → モスクワ空港 → 成田空港		
2. 留学経費について			
所要経費	総額	80万 円	
	内訳	渡航費	15万 円
		保険料	5万 円
		教科書代(学費)	0 円
		宿舍費	15万 円
		食費	10万 円
		その他 (雑費) (旅行費)	5万 円 30万 円

3. 授業について			
2016年 秋学期	9月 2日	～	12月 15日
年 学期	月 日	～	月 日
年 学期	月 日	～	月 日
年 学期	月 日	～	月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	教育学部の授業 言語センター (フィンランド語・英語)		
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること		
学術面に関する後輩へのアドバイス	留学生向けに開講されている授業の概要は留学前でも大学のホームページから見られるので, その授業の分野で必要な専門的な英単語やフィンランドの基礎知識を知っていると授業が聞きやすいです。会話以外のフォーマルな英語のリスニングなどで聞き慣れておくとなお良いです。		
4. 生活等について			
(1) 留学先の住居について			
住居の種類	<input type="checkbox"/> 大学の寮 <input checked="" type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()		
住居の広さ	約 10 m ² (個室)	同居人の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (2, 3 人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input checked="" type="checkbox"/> その他 (サウナと洗濯機・乾燥機は棟全体で共用)		
住居費	1ヶ月当たり 250 ユーロ (現地通貨)	約 3万 円	
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()		
留学先での住居全般に関するアドバイス	アパートやルームメイトについての希望は, オンライン申請時に出すことができる。留学中に, アパートを変更したい場合は, 申請して空きがあれば可能。サバイバルキット (食器・キッチン用具・布団・シーツなどのセット) をレンタルするとよい (大学から案内が届く)。		
(2) 医療について			
1日以上入院を要する病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった		
入院した場合	により 日入院		
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった		
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()		
掛け金は	年間 (5ヶ月で) 約5万円 補償額 死亡 1000万円, 入院1日 円 その他 ()		
留学前後での予防接種の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受			

けた医療機関名		
日常的な健康について不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由：	
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	ひどい虫さされをしたので、保健管理センターへ行くと無料で診察してもらえて、購入すべき薬を教えてもらったので、薬局で購入した。	
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	11月頃から日照時間が短くなるので、薬局でビタミンDを購入して摂取する必要がある。 また、寒さも厳しいので、防寒具は現地で購入すると良い。	
(3) 危険を感じた地域、状況		
特に危険は感じなかったが、首都ヘルシンキのやヴァンター空港では、外国人も多いので気をつけた方が良い。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
衣類やキッチン用具などはセカンドハンドショップ（古着・中古の物が買えるお店）でそろえられるので、日本から持っていく物は最低限で良い。米や海苔は売られているが、みそ汁やふりかけはなかなか売られていないので、持っていくと良い。普通の箸や菜箸もあまり売っていないので持っていくと良い。		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 31年 3月 (当初の卒業予定年月 平成 30年 3月)	
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input checked="" type="checkbox"/> その他（具体的に 教員免許取得のため)	
現在の状況および今後の予定・進路等	留学後の1月～9月までは休学。10月から復学し、教員免許取得のための単位を取りながら卒業論文にとりかかる。	
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫	総合科学部の卒業要件単位は留学前の3年前期までの期間で、ほとんど取り終えることができた。教員免許については、3年後期に開講される実習の事前指導の授業を留学により受講出来なかったため、卒業を1年遅らせなければいけない。そのため、単位取得の必要が無い期間は休学して、将来について考える期間に当てることにした。	
6. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等		
書籍、サイト名	詳細（出版社、URL等）	コメント
フィンランド語が面白いほど身につく本	中経出版	フィンランド語の基本表現や文法、単語などを勉強するのに便利な一冊です。
留学後雑記	http://ameblo.jp/naoko-netherlands/entry-12082290425.html	留学中、辛くなった時に読みました。
7. 自由記述（後輩へのアドバイス等）		
留学中は楽しいこともたくさんありますが、辛いこともあります。たしかに、留学中にしかできないことはたくさんあるので、全部経験しなくてはならないと焦ることもあると思います。しかし、マイペースに過ごす時間も必要です。そのためには、留学中にこれだけはしたいという目的をはっきりさせておくと、焦った時に、自分が今どうすれば良いかということが見えやすくなると思います。自分のペースで留学生活を送ってくださいね。		

(授業履修について)

所属学部・研究科	総合科学部／研究科	3年次 (留学開始時点)
留学先大学	ユバスキュラ大学 (国名: フィンランド)	
所属学部・学科等名	教育学部	
在籍身分	交換留学生	
留学期間	平成 28 年 8 月 13 日 ~ 平成 28 年 12 月 27 日	
1. 履修登録について		
いつ頃履修登録をしましたか。(例: 出願時 (月頃)、出発直前 (月頃)、派遣先大学到着後 (月頃))		
出願時 (3月) に仮登録 (本登録時に変更可能) 派遣大学到着後 (8月~9月) に本登録		
希望の科目をどの程度履修できましたか。(例: すべて履修できた・いくつか変更させられた・ほとんど履修できなかった)		
いくつか履修できなかった。		
履修できなかった理由、変更が必要になった理由を述べてください。(例: 3年生以上しか履修できない科目だった)		
時間帯が重複していた科目がいくつかあったため。		
交換留学生に履修制限がある科目はありましたか。どのような制限ですか。履修に際して必要書類はありましたか。		
自分の所属学部以外が開講している授業は受けられないものもあった。 履修に対して必要書類は特になし。		
2. 履修科目について		
履修科目数	合計 4科目	
履修科目 1		
科目名	Academic English	
時間数	夏休みの集中コース (10日間) 1日3時間	
科目内容、予習・復習・試験・レポート等具体的な内容について記述してください。		
英語のレポートの書き方やディスカッションのやり方など学術的な英語を勉強した。グループワークがいくつかあり、授業外の時間に数回集まって作業をした。試験はなし。レポート提出が2回あり、最後の授業の時にプレゼンテーションをした。		

履修科目 2	
科目名	Finish 1
時間数	1週間に 90分の授業が3コマある。 合計 約36コマ
科目内容、予習・復習・試験・レポート等具体的な内容について記述してください。	
基本的なフィンランド語の表現や文法について学んだ。授業の予習・復習は必須である。週に1回程度、簡単な課題が出る。レポートはなし。試験は、リスニング・スピーキング・リーディング・ライティングに分かれて行われる。	
履修科目 3	
科目名	Education in Finland
時間数	1週間に 90分の授業が合計 7回
科目内容、予習・復習・試験・レポート等具体的な内容について記述してください。	
フィンランドの基本的な教育制度について学ぶ講義形式の授業。復習として、授業毎にレポートを書く。最後の授業の後にまとめて提出。	
履修科目 4	
科目名	On the Trail of Finish Culture
時間数	1週間に 90分の授業が合計 12回
科目内容、予習・復習・試験・レポート等具体的な内容について記述してください。	
教育と文化に関する授業。自国の世界遺産についてのプレゼンテーション、小学校を訪問して授業をする、ユバスキュラの博物館の見学など、内容は多岐にわたる。2回のプレゼンテーションと最終レポートの提出がある。	
履修科目 5	
科目名	
時間数	1週間に 分の授業が合計 回
科目内容、予習・復習・試験・レポート等具体的な内容について記述してください。	

学習の概要に関するレポート

・HUSA プログラムとユバスキュラ大学について

私は広島大学では総合科学部だが、フィンランドでは教育について学ぶために教育学部に所属した。このように、ユバスキュラ大学では、自分の大学の所属学部にとらわれずに自由に学部を選ぶことができる。また、HUSA プログラムでは、単位数などの規定がないプログラムであるため、自分の勉強したいことに集中して授業を受けられる。さらに、交換留学の制度である HUSA プログラムでは留学中も広島大学に授業料を納めれば良いため手続きが簡単である。

・授業について

はじめに、教育学部で受けた授業について紹介する。Education in Finland という授業は、フィンランドの基本的な教育制度について学ぶ講義形式の授業であった。ただ、講義形式とはいえ、生徒が活発に質問したり、逆に先生が生徒に問いかけたりなどコミュニケーションが活発であった。また、On the Trail of Finnish Culture という教育と文化に関する授業も受けた。留学生が自国の世界遺産についてプレゼンテーションを行ったり、小学校を訪問して授業をさせてもらったりなど、活動的な授業であった。

教育学部の授業以外に、英語やフィンランド語を学ぶ授業も受講した。それらは大学の言語センターが開講している授業で、他にも様々な言語を学ぶことができる。それらの授業も大学の他の授業と同じように単位を取得することができる。また、夏休みの集中コースもある。留学生向けには約一ヶ月間のフィンランド語コースと、約二週間の英語のコースが開講されており、希望者は無料で受講できる。私が受講した Academic English という授業では、英語のレポートの書き方やディスカッションのやり方など学術的な英語を勉強した。Finish1 という授業では、基本的なフィンランド語の表現や文法について学んだ。このような言語の授業ではその言語を学ぶことはもちろんだが、私はフィンランドではどのように言語を教えているかということにも興味があったため、そのような視点も踏まえて授業を受けることができた。

・履修登録と学生のサポート体制について

授業の履修登録は、9月のオリエンテーションの後に行えば良い。夏休みの言語のコースを受講する場合は、先に登録の仕方を教えてもらえる。履修のシステムは、登録できる期間が授業によって異なること、時間や場所が毎回固定されていない授業が多いことなど、やや複雑である。定員が早く埋まってしまう授業もあるので、興味のある授業は早めに調べておいた方が良い。ただ、授業によっては先生に交渉して定員オーバーでも受講することができる。また、受講するか迷う場合は第一回目の授業後に履修を取り消すこともできる。気になることや不安なことがあれば、まずは授業を担当している先生や各学部の留学生担当のスタッフであるコーディネーターにメールなどで聞いてみると良い。非常に親身になって相談に乗ってくれるので、私も授業のことや関心のある分野のことなどについて個人的に相談していた。例えば、私はフィンランドの小学校などを見学したいと相談したら、大学の付属小学校、中学校、高校を見学させてもらうことができた。それぞれの学校の生徒や先生に案内をしていただき、教室や授業風景を見ることができた。



図 1 教育学部の建物



図 2 フィンランドの小学校

生活の概要に関するレポート

・大学の学生組合

大学には JYY という、広島大学の生協のような団体である学生組合がある。住居の斡旋や留学生向けのイベント運営、保健管理センターの運営など、学生生活のサポート全般を行っている団体である。何か困ったことや相談したいことがあれば大学内のオフィスに行くか、JYY のホームページを見るとよい。

・アパート・ルームメイト

住居は、学生アパートのようなところで、他の国から来ている留学生と 2～4 人でルームシェアである。アパート群が大学周辺にいくつかあり、基本的には自動的に割り振られる。ただ、このアパートが良い、友達と一緒に住みたい、などの希望があれば留学前のオンライン申請の中に希望を書く欄がある。また、一緒に住んでみたけれど、どうしてもルームメイトとうまくいかないから部屋を変えてほしいという場合は、他に空きがあれば部屋を変えてもらうこともできる。アパートはそれぞれ個室があり、キッチンとバスルームはルームメイトと共用である。バスルームにバスタブは無い。また、フィンランドの水道水は非常にきれいなのでそのまま飲むことができる。ネット環境については、自分でルーターを購入すれば快適に Wi-Fi を使用できる。

私は学食以外ではあまり外食をせず、自炊をしていた。たまに夕食をルームメイトと一緒に作って食べたり、友達同士でごはんを持ち寄ってパーティーをしたりした。学生組合の中には、サバイバルキットという基本的な食器や鍋をレンタルできるオフィスがあり、ほとんどの留学生はそのキットを使用し、必要に応じて食器や道具を買い足したりしていた。私はルームメイトとお互いのサバイバルキットをシェアしていたので、あまり買い足す必要はなく過ごすことができた。

・学食

学食は大学内に複数ある。各学食には特色があるがどの学食も形式は同じである。サラダはバイキング形式で、メインディッシュを一つ選び、パンも食べ放題で 2.6 ユーロ（約 300 円）とお得な値段でたくさん食べることができる。学食は留学生のほとんどがおいしいと言っていた。

・フレンドシップファミリープログラム

大学に、フレンドシップファミリープログラムというものがある。留学生とフィンランド人の家族が文化交流をすることを目的にしたプログラムである。大学が、応募してきた家族留学生をマッチングして、その後は留学生と家族で連絡を取り合い会う頻度などを決める。私はこのプログラムに参加し、フィンランド人の温かい家族に迎えられ、一緒に色々なことをして過ごすうちにフィンランドにも家族が出来たように感じた。帰国後も何度かメッセージのやり取りをしており、将来もう一度会いたいと思えるような出会いとなった。留学生の応募枠には限りがあるので、早めに応募すると良い。

・気候など

8 月でも朝晩は冷えるので、上着が必要だ。私は持っていく衣類や物は少なめにして、セカンドハンドショップ（古着・中古のお店）で物をそろえた。ショップは大学周辺に数件ある。それらのお店ではいらぬ物があつたら引き取ってくれるので、帰国時にはそれを利用した。また、11 月ごろになると雪が降り始めて寒くなり、現地で冬用のブーツと上着を購入した。

留学中は勉強だけでなく、生活のまわりに溢れる自然もぜひ味わってほしいと思う。夏の晴れた日は本当に気持ちが良く、冬の雪景色は美しいので。



図 3 アパートの裏の湖



図 4 仲良くなった韓国人の友達



図 5 フレンドシップファミリープログラムのファミリー